

＜過去1週間の動き＞

(4月14日～4月20日)

USD/ZAR: 14.5150～15.1025
ZAR/JPY: 8.24～8.73 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、対ドルで素直に反落、対円でも頭打ちから最終的に反落した。昨年12月以降ほぼ一方的に続いたランド堅調推移(とりわけ3月以降の対円での急上昇)を受け、調整的なランド反落の可能性はある程度予見できたものの、対ドルでここまで明確な反落を見る展開は想定できていなかった。19日のランド急落の主因は3点挙げられただろう。①南ア電力公社(Eskom)が、同日、計画停電を(17日以降導入していた)段階2(2千メガワット規模)から段階4(4千メガワット規模)に引き上げた上で、今冬中に最大101日間の計画停電実施を予告したこと ②12/13日以降、クワズルーナタール州を中心に襲った洪水被害に対し、19日になって国家災害事態宣言が出されたこと ③ランド/円の頭打ち→調整安とドル/ランドの直近高値上抜けが重なったというテクニカルな要因だ。①はとりわけ深刻で、計画停電を回避するためには、予期せぬ(不慮の)発電能力喪失を12.5千メガワット以下に抑制する必要があるところ、19日までにその喪失規模が16.5千メガワットまで拡大(よって段階4の計画停電)、現状で更に追加で11千メガワットの発電能力を失うリスクがあるという。洪水によって一部炭鉱が冠水した影響も少なからずあるようだが、南ア電力供給の脆弱さをあらためて浮き彫りにしたと言えよう。②に関する報道は、当地(ロンドン)では14日前後から報じられており、以降のランド軟調に相応に貢献していた可能性も考えられた。ただ、国家災害事態宣言があらためてランドを押し下げた側面も少なからずあったのだろう。③ランド/円の頭打ち/反落は、ドル/円のそれに先行し、19日の欧州時間には既に始まっていた(後者は20日のアジア時間になって漸く進んだ)。前後して、ドル/ランドが直近高値(ランド安値)である14.8125(4月7日)を割り込んだことで、対円でのランド売り、対ドルでのランド売りが相互作用的に加速した感があった。20日発表された南ア3月CPIが、市場予想を小幅下振れたのは、ランド続落を促す要因と受け止められたようだが、大局的には、些細な材料のように思われた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
4/14	9:30	鉱業生産(前年比)	2月	-6.0%	-0.1%	+1.7%r
4/20	8:00	CPI(前年比)	3月	+5.9%	+6.0%	+5.7%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

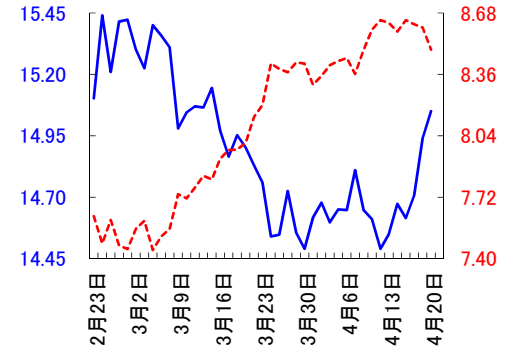
(4月21日～4月27日)

USD/ZAR: 14.900～15.250
ZAR/JPY: 8.35～8.60

向こう1週間の南ア・ランド相場は、軟調を予想。上述①～③のランド売り要因のうち、③は水ものだが、①、②が早晚解消する可能性は考え難い。南ア電力不足が、南ア産業の重大な重石との認識は、かれこれ15年近く共有されてきたが、近年、Eskom送電事業の切り離し(実質的な発電、送電、配電の分社化)とか、無認可(登録のみ)発電施設の許容量引上げ(従来の1メガワットから100メガワットへ)とか、様々な「改善」が進んでいたと思っていたところ、状況は、少なくとも現在まで、全くとって良いほど改善していない事実を突きつけたと感じられた。②のクワズルーナタール州は、ズマ前大統領ら反ラマポーザ大統領派(反改革派)の地盤であり、考え方によっては、同州におけるラマポーザ大統領への支持を高める格好の機会にもなり得るはず。しかし、コロナ対策で疲弊した南ア財政に、積極的な支援策を打ち出し、州民の歓心を集める余地は、残念ながら少ないのではないかと。③に関しては、引き続き、対円での値動きがランドの方向感に大きく影響する可能性が高いように思われる。日本政府・日銀からは、この間、急速な円安進行をけん制するかの発言も聞かれたものの、そうした口先介入とは裏腹に、日銀は20日以降、指値オペ(長期金利抑制策)を発表/実施した。実質的な「円安容認宣言」とも受け止められる動きで、足元進んだ円反発が定着する可能性は高くないように思われる。実のところ、日銀には、是が非でも物価を押し上げるため、一段の円安を「望んでいる」節さえある。仮に日銀がそこまで腰を据えて(輸入)物価を押し上げる腹であるのなら、「対ドルで12日前の直近安値を割り込んで、5週間ぶりの安値を更新した」という些末なテクニカル要因がランド続落を招くよりも、対円でのランド堅調が、逆にランド全般の地合いを底堅くする可能性の方が高いようにも思われる。

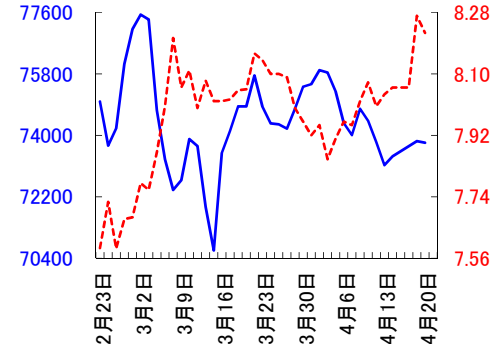
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.25%
長期金利(10年スワップ)	4月20日	8.220%
株価指数(JSE全株)	4月20日	73783.43
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	2月	+5.7%
小売売上高(前年比)	2月	-0.9%
製造業生産(前年比)	2月	+0.2%
鉱業生産(前年比)	1月	+0.1%
貿易収支(ZAR)	2月	+10.6bn
金価格(ロンドン17:00)	4月20日	1951.06

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。